

潤滑油-低温見かけ粘度試験法 -ブルックフィールド粘度計法

(2016年3月30日追補)

この追補は、2010年9月22日に改訂された“潤滑油-低温見かけ粘度試験法-ブルックフィールド粘度計法”2010年版の追補である。

したがって、今後、JPI-5S-26-2010とは、この追補を含むものとする。

なお、この追補は該当箇所のみを示す。2016年3月30日の追補は次の2箇所である。

追補 1

3.6 報告 3.5 で計算された粘度を試験温度とともに報告する。また、必要に応じて測定時のスピンドル回転数、標準油の測定粘度を報告する。

なお、デジタル粘度計を使用する場合は粘度計の直読値をそのまま報告してよい。

追補 2

3.2 試験用機器

b) スピンドル ブルックフィールド粘度計 LVT 型用 No.4LV スピンドル。シャフトが絶縁されている 4B2 が好ましい。図 2 に形状、寸法の一例を示す。

追補-2016 の解説

追補 1 について

デジタルタイプの粘度計を使用した場合の報告方法が不明確であったことから、デジタル粘度計を使用した場合の報告方法について追記した。

追補 2 について

試験用機器であるスピンドルの形状及び寸法について、図 2 が一例を示したものであることが分かるよう文言を修正した。

潤滑油低温見掛け粘度試験方法審議会

構成表

製品部会 (部会長)	委員 10 名 (所属、氏名略)
潤滑油分科会 (委員長)	松岡 徹 JX エネルギー株式会社
	委員 6 名 (所属、氏名)
	田谷 隆裕 コスモ石油ルブリカンツ株式会社
	宇高 俊匡 出光興産株式会社
	羽生田 清志 昭和シェル石油株式会社
	岩井 雄俊 一般社団法人潤滑油協会
	宮島 誠 JX エネルギー株式会社
	加藤 智浩 東燃ゼネラル石油株式会社
(事務局)	青山 竜 公益社団法人石油学会